



REPORT ③

「雪」を通じて交流を深める 高野中学校・似島中学校冬の交流会

毎年恒例となった高野中学校と似島中学校による冬の交流会が2月3日・4日の2日間、高野町内で行われました。

高野中学校と似島中学校が交流を始めて今年で24年目。夏は海のある似島へ、冬は雪のある高野へと交互に行き来して交流を深めています。

高野を訪れた似島中学校の1・2年生21人は、夏の交流から半年ぶりに再会した高野中学校の1年生21人とすぐに打ち解けていました。



▲協力して雪像作り



▲高野中の生徒がスキースキの先生

初日は、高野中学校のグラウンドで4班に分かれて雪像作りを体験。雪に慣れた高野の生徒がリードしながら協力して大きな雪像を完成させました。

2日目には、高野町内のスキー場でスキーを体験。初めて経験する生徒もいましたが、昨年経験している2年生は、高野の生徒と一緒にTバーリフトに乗るなど、上手に滑っていました。

普段見ることのない雪を体験した似島の生徒たちは「すごく楽しい」「雪はおもしろい」と口をそろえ、天候に恵まれた2日間を大いに楽しんでいました。

白銀のクロカンパークで 雪と遊ぼう！庄原ウインターリゾート

REPORT ④

庄原さとやま博の冬イベント、雪の道後山高原を楽しむ「雪と遊ぼう！庄原ウインターリゾート」が1月29日・30日、西城町の道後山高原クロカンパークで開催されました。

道後山高原クロカンパークは、昨年末からの降り積もった雪が1cmを超え、雪を楽しむ絶好のコンディションで当日を迎えました。

初日はかまくら作りにチャレンジ。1家族で1つかまくらを作り、夜には雪灯籠や竹灯籠の明かりを



▲大人気のスノーモービル試乗体験

灯し、幻想的な雰囲気になりました。2日目はスノーモービル、スノーシュー、歩くスキーなどの体験やそり遊びで楽しみました。

2日間で約120人の家族連れが訪れ、雪の道後山高原を満喫。参加者の一人は「ゲーム以外でこんなに夢中になる子どもを見るのは久しぶりです」ととても喜んでいました。



▲スノーシューで雪山を散策



ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート

REPORT ①

刀への情熱、研究、鍛錬が生み出す名刀 久保善博刀匠お守り刀展

田園文化センター新春企画展「久保善博刀匠お守り刀展」が田園文化センターで開催されました。

1月20日～23日に開かれた展示会には、延べ300人を超える来館者が訪れ、普段見る機会の少ない日本刀の美しさに魅了されていました。

また、1月23日には「古名刀再現への挑戦」と題して

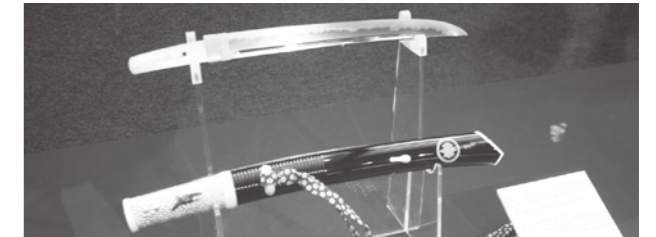


記念講演が行われ、市内外から101人が来場。久保さんが刀匠になった経緯や刀鍛冶としてのこだわり、研究者としての取り組みなどを熱心に聞

▲刀の魅力を語る久保さん

き入っていました。講演後には、実際に刀に触れて久保さんの解説を聞く参加者もいました。

久保さんは、平成13年に西城町で善博日本刀鍛錬道場を開き、本格的に和鉄の研究に取り組んでいます。平成21年には庄原市無形文化財・日本刀製作技術(保持者)に指定されました。



▲久保さんの作品11点が展示

雪合戦とグルメで熱戦！ 鍋&漬物グランプリを初開催

REPORT ②

さとやま博冬のメインイベント広島県雪合戦大会が2月5日・6日の両日、高野スポーツ広場で開催され、県内外から97チーム、約1千人が参加しました。

試合は、1チーム7人が縦10m、横36mのコート内で対戦し、選手はシェルターと呼ばれる壁に身を隠しながら、1セット90個の雪玉を投げ合いました。緊張感と迫力ある攻防が各コートで展開されるたびに、大きな歓声があがっていました。また、広島カープOBチームが初参加し、往年の名選手たちが魅せるプレーで会場を沸かせていました。

今回は、鍋と漬物のグランプリが初めて開催され、鍋の部には県内外の10グループが参加、漬物の部では26の個人・企業が41種類を出品。それぞれ自慢の味を競いました。

高橋進実行委員長は「来年は15回の記念大会。この大会が一目でわかる雪合戦情報誌の作成など新しい企画も検討している。参加者がより楽しめる大会になるようしっかり準備していきたい」と意気込んでいました。



▲シェルター越しの激しい攻め合い



▲漬物を試食する観光客

大会および鍋&漬物グランプリの結果は次のとおりです。(敬称略)

- 一般の部Pリーグ
 - 優 勝 チーム和南原左衛門ズ(高野町)
 - 準優勝 福山平成大学雪合戦部(福山市)
- 一般の部Fリーグ
 - 優 勝 雪村時代(高野町)
 - 準優勝 SJ松江(島根県松江市)
- レディースの部
 - 優 勝 木もれ陽ガールズ(島根県浜田市)
 - 準優勝 クラッシャーラン☆L(香川県高松市)
- ジュニアの部
 - 優 勝 高野雪合戦部赤(高野町)
 - 準優勝 総領少年野球部(総領町)
- フェアプレー賞
 - 口南タイガーラビット(口和町)
 - 美異茄子(高野町)
- チームフラッグ賞
 - 最優秀賞 笑楽リアル1000%(庄原市)
- コスチューム賞
 - 最優秀賞 ロミジュリーズ(高野町)
- 鍋グランプリ
 - 優 勝 ハッスルかあちゃんの雪玉鍋(高暮かあちゃんグループ)
 - 準優勝 ひろしま牛カレー鍋(しゃくなげグループ)
- 漬物グランプリ(大根の部)
 - 優 勝 大根のニンニクしょう油漬(垣内純子)
 - 準優勝 大根のカレー風味漬(糸原フサコ)
- 漬物グランプリ(大根以外の部)
 - 優 勝 キャベツのゆずロマン(牧原令子)
 - 準優勝 海鮮高野キムチ(亀山真理子)
 - 準優勝 ぬくちゃんの健康山菜漬げゼンマイ(温井静香)

REPORT ⑧

木の香り漂う新園舎が完成 小奴可保育所新園舎落成式



▲完成した木造の新園舎

私立小奴可保育所の新園舎が完成し1月15日、園児と保護者、地域の皆さんが集まり落成式を行いました。

新園舎は、木造平屋建て695平方メートルの間切りを少なくしたバリアフリー構造で、保育士がどこからでも園児の顔を見られるよう配慮されています。

式の中で吉川由基子所長は「新園舎で地域の宝であ

る子どもの笑顔をしっかり育てていきます」とあいさつ。また、元気いっぱいの園児たちが「うた」「詩の朗読」「和太鼓演奏」などを披露し、会場には笑顔があふれていました。

同保育所に通う65人の園児たちは「木のおいがするね」「広くてあったかいね」「気持ちがいいね」と喜んでいました。



▲落成式後のアトラクション(児童のうた)

出会い・ふれあい・学びあい 東城公民館まつりが開催

REPORT ⑨

公民館活動の発表の場として恒例となっている「東城公民館まつり」が1月29日・30日の両日開催されました。

初日に老人福祉センターで行われたステージ発表では、公民館教室をはじめとする16団体が、楽器の演奏や踊りなど日ごろ

鍛えた腕前を披露。東城保育所園児が着物やはかま姿で踊ったり、最高齢95歳のおばあちゃんが元気に詩歌を吟じたりする姿に、会場からは再三大

きな拍手が沸き上がっていました。

また、隣の東城文化会館では、生け花・陶芸・木工品・書道・ちぎり絵など東城公民館が主催する講座や各教室で作られた力作が展示され、訪れた人は作品の出来栄に感動したり、技のすごさに感心したりしていました。



▲日ごろの活動の成果を発表

REPORT ⑩

「節分草」が告げる春の兆し 総領町で自生地公開が始まる

希少な山野草「節分草」の自生地公開が2月12日から総領町で始まりました。

今年は1月の寒波の影響から、公開開始当初にはまだ雪を被っている自生地があるなど、例年よりも2週間程度開花が遅れ、観光客の足も心配されましたが、

幾つかのつぼみや花びらが確認できる自生地があると知った節分草ファンは、カメラを手に自生地に駆け付け、小さくかわいらしい節分草を前に何度もシャッターを切っていました。

訪れた観光客は「公開し

て1週間、まだ開花が少なく残念だが、見ごろを逃さないように何度も足を運びたい」と話していました。

期間中は、節分草の案内所が道の駅リストア・ステーションに設置され、ボランティアガイド花守りが節分草の開花状況や自生地の場所などへ案内してくれます。土日を中心にバザーや山野草に関する講座、教室なども開催。節分草自生地公開は3月13日(日)まで。



▲節分草の説明をする花守り



元スキー場で雪遊びを楽しむ 口和でスノーフェスタが開催

REPORT ⑤

「スノーフェスタ in 口和」が1月30日、元金尾原スキー場で開催されました。

口和町観光交流協会、宮内自治会などが主催したこのイベントに市内外から120人が訪れ、地元指導者によるスキー教室をはじめ、雪を使ったさまざまなイベントが行われました。



▲大人気のそりすべり

雪いっぱいの会場に大喜びの子どもたちは、そりを使用したジャンプ大会で大記録を狙ってそりに勢いよく乗り込んだり、個性あふれるかまくらを作ったりと、一日中雪と戯れ楽しんでいました。また、来場者にはぜんざいがふ

るまわれ、冷えた体を温めました。

口和町観光交流協会の上田慎二さんは「市内外から多くの参加があり盛況だった。今後も地域の観光資源を生かしながら、多くの観光客をもてなしていきたい」と意気込んでいました。



▲作ったかまくらの前で記念撮影

REPORT ⑥

地元と連携し文化財の防火を強化 文化財防火デーで防火訓練



▲熊野神社での防火訓練の様子

文化財を火災から守る火災想定訓練が1月22日・23日の両日、市内各地域で実施されました。

これは、昭和24年1月26日に国宝法隆寺金堂の壁画が焼損したことを機に、同日が文化財防火デーと定められ、この日を中心に全国各地で文化財の防火運動が展開されています。

今年は、高野町の「円正寺」、本郷町の「円通寺」、東城町の「白鬚神社」、西城町の「熊野神社」の4カ所で訓練が行われ、どの場所も大雪で足場が悪い中、地域住民の皆さんによるバケツリレーや地元消防団と連携した消火訓練を実施。参加者は「バケツリレーの大変さと重要さを実感した」「寒い中での訓練だったが貴重な体験になった」などと話していました。

農家民泊の可能性を熱く議論 実践発表会で三河内地域がパネリスト

REPORT ⑦

県教育委員会が主催する「山・海・島」体験活動推進事業実践発表会が1月20日、広島県庁で開催され、比和町三河内地域振興会事務局長の奥田順紀さんが、パネリストとして出席しました。

三河内地域振興会は、平成20年から農家民泊の受け入れを行っています。奥田さんのほか県内から選ばれた5人のパネリストは「長期宿泊体験の可能性と今後の課題」をテーマに、取り組みの発表やそれぞれの立場から意見を出し合いました。奥田さんは、農家民泊の経営と都市部の小学生を受け入れてきた経験をもとに、「三河内の農家民泊では、子どもたちに農業などを通じて地域や自然を学んでもらおうと考えている。先生は学校の延長にならない立ち位置が重要」と熱く語りました。



▲意見を述べる奥田さん